

|                  |   |
|------------------|---|
| Title            | 協調的M&Aがもたらしうる持続的競争優位 - イノベーティブなMA事例の一考察 -   |
| Sub Title        |   |
| Author           | 守岡, 伸彦(Morioka, Nobuhiko)<br>大林, 厚臣   |
| Publisher        | 慶應義塾大学大学院経営管理研究科  |
| Publication year | 2005  |
| Jtitle           |   |
| JaLC DOI         |   |
| Abstract         |   |
| Notes            | 修士学位論文. 2005年度経営学 第2089号<br>連絡が必要   |
| Genre            | Thesis or Dissertation  |
| URL              | <a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002005-2089">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002005-2089</a> |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 論文要旨

|   |          |      |          |    |       |
|---|----------|------|----------|----|-------|
| 所属ゼミ  | 大林厚臣 研究会 | 学籍番号 | 80430926 | 氏名 | 守岡 伸彦 |
| (論文題名)  |          |      |          |    |       |
| 協調的 M&A がもたらしうる持続的競争優位  |          |      |          |    |       |
| — イノベーティブな M&A 事例の一考察 —   |          |      |          |    |       |
| (内容の要旨)   |          |      |          |    |       |
| <p>本論文は、企業が「組織の境界」を変化させて生き残ろうとする場合、その如何なる努力が、どのような競争優位を、いかなるメカニズムで向上させるのかについて、考察しようとするものである。</p> <p>世の中には、様々なタイプの企業がある。例えば他社を凌駕する規模と範囲を持ち、圧倒的な効率を武器に市場を支配しようとする企業がある。また特定の対象に対して、オリジナルで差別的なことを、誰より上手に行うことができる企業もある。これらの企業はそれぞれ独自のポジションを築き、市場で存続することができる。一方で残された多くの企業は、規模の面でもオリジナリティの面でも相対的に劣位のポジションしか持たない。それらは、競争優位なポジションにある企業が食べ残したパイをめぐる競争を繰り返している。しかし競い合うしかなかった劣位の企業同士が競争ではなく、発想を変えて「一緒に協力する」関係を構築できるなら、個々の企業が持つ合理性の限界を超えて、これまでには考えられなかった生き残りの途が開けるかもしれない。ではどのようにすれば、これまで競い奪い合ってきた者達と、支配あるいは従属ではなく、協力しあう関係が築けるのだろうか。</p> <p>その考察のため本論文では、繰り返される寡占化の歴史を持ち、一方でニッチャーも並存する自動車業界において、1990年代後半に巻き起こったグローバル再編を取り上げる。その再編の最中、市場で競争しながらも協力する新たな関係を築き、より大きいパイを生み出すことを高く掲げた M&amp;A がある。ルノー/日産のグローバル・アライアンスである。このアライアンスにおいてルノーは、ルノー/日産両社の将来を、「支配・被支配」の関係ではなく永続的な「協調関係」に方向づけた。</p> <p>本論文ではルノー/日産のグローバル・アライアンスを、両社の「協調関係」を基盤とする異質な情報の「新結合」(イノベーション)によって「持続的」な「バリュー・クリエーション」をもたらす「協調型 M&amp;A」として定義した。その上で特にルノーの立場に立ち、相互の「信頼」を基盤とする「協調関係」が企業の競争優位に対して持つ意義に着目しながら、その成立メカニズムと成立条件を試案として提示することを試みた。</p> <p>ルノー/日産型「協調型 M&amp;A」を他の M&amp;A で再現することは、非常に難しいように思える。しかし必ずしも不可能ではない。イノベーティブな M&amp;A を成功させなければ生き残れないというコミットメントが、互いに優先度の異なる個別利益の主張ではなく、共通の将来利益を生む可能性に目を向けさせる。「協調的 M&amp;A」がもたらす「持続的」な成功は、企業リーダーによる「協調へのコミットメント」で決まると言えよう。</p> |          |      |          |    |       |